



第33号  
平成23年11月  
編集・発行  
日本杖道会

## 鹿島神宮奉納武道並びに 秋季武道合宿研修会が盛會に挙行された

### 日本杖道会

#### 新装の床になった神宮道場

去る11月3日から8日までの日程で見出しの研修会が催されました。

6日間に亘る鹿嶋市は連日爽秋日和に恵まれ、鹿島神宮参道は菊祭りが開催され多くの参詣者で連日賑わっていた。また、折からのNHKBSプレミアムで放映されている塚原ト伝先生のドラマにあやかっつて、町は塚原ト伝一色でした。

5日には鹿島神宮の昇殿参拝と神宮道場に於ける奉納演武を行い、鹿島則良宮司よりご挨拶を頂きました。震災で倒壊した本殿参道入り口の鳥居、御手洗の池から奥宮に至る参道の鳥居が倒壊するなど、震災の傷跡が至る所で散見されました。大鳥居は境内の太木により再建さるゝとのことでありました。

新装の道場(約300畳)は大木杉板で床張りされ修験者に配慮された拡張豊かな道場であり「洗心」の観点から最良の道場で奉納演武を正午まで行いました。

奉納演武に先立ち、ジャッククービエラさんが「奥人証」を、クロードーギルモアさんが「初目録」をそれぞれ伝授されました。今回の合宿は行事多忙のため、関係者への案内が遅れてしまったにも関わらず九州、大阪そして遠くアメリカからも多数参加され、最終日まで熱心に稽古に励みました。

大阪に於ける全日本杖道大会、5段以下審査会と今年の剣道連盟主要行事が終了したこともあり、今回の研修内容は、鎖鎌を中心とした神道夢想流の併伝武術(剣術、短杖術、十手捕縛術)に重点が置かれ、杖道も古流中心で、特に6日、7日は奥伝の稽古に皆、夢中になっておりました。

5泊6日の合宿でしたが、事故も無く無事に終了出来ました。参加された皆様のご協力に感謝申し上げます。

日本杖道会

事務局長 阿部 修

# 家天愛人



奉納武道霞流剣術 鹿島神宮道場



一心流鎖鎌術研修 鹿島神武殿



奉納武道 鹿島神宮道場

# 浪合神社奉納武道 第10回各流武道演武会

平成23年8月10日発行の  
南信州新聞の掲載記事より

日本杖道会(神之田常盛会長)主催の浪合神社奉納武道と第10回各流武道演武会はこのほど、阿智村浪合神社などで開催。北は仙台市から南は鹿児島県まで全国各地から約30人の会員が参加した。

これは、約600年前から伝わる「一心流鎖鎌術」の始祖で晩年(明德・応

永の頃)を浪合で過ごした慈恵念和尚を偲ぶもの。まずは早朝に、浪合念流山の摩利支天祠へ登山参拝。その後、浪合神社前へ移り、鎖鎌術や、剣術、棒術居合術などの奉納武道を繰り広げた。神之田会長(83)東京都清瀬市)がそれぞれの術について解説し、20人ほどの参観者に理解を促じた。

午後からは浪合小学校体育館で各流の武道演武会が行われ、浪合ヘキヤンプに訪れていた愛知県内の小学生ら約50人の参観もあり、盛り上がった。

神之田会長は「一心流鎖鎌術を主とした古武道で、人間形成、人造りに真価が発揮されている武道を通じて青少年健全育成、高齢化社会の保健体育に貢献すべきだ」と話していた。

平成23年浪合鎖鎌選考会入賞者は以下の通り。(敬称略)

- 優勝 東浜 秋雄(東京)
- 準優勝 武藤 隆雄(千葉)
- 第三位 坂口 雅男(長野)
- 敢闘賞 坂口 慎二(長野)
- 小山 豊(大阪)
- 住田 克己(東京)

## 一心流鎖鎌術

### 発祥の地を訪ねて

日本杖道会藏脩館道場 住田 克己

7月31日  
午後1時、長野県飯田市武道館で日本杖道会主催の第10回各種武道研修会に北は仙台から、南は鹿児島まで全国各地から30余人の武道愛好家が参加した。

まず初めに杖を使ったストレッチにより、身体をほぐし、神道夢想流の杖道。引き続き元祖念阿弥慈恵から12代目にあたる、神之田常盛範士の指導による一心流鎖鎌術の研修が行われた。礼法・鎖の手練り方法からはじまって、表術一本目居敷から十二木目袖搦まで順次懇切丁寧に実技をもって指導・解説が行われた。

念流正法兵法未来記目録によると念流は、合戦を想定した総合武術であったといわれるだけに、この鎖鎌術を修練することによって、沢庵和尚の不動智神妙録にある石火の機、また五輪の書「水の巻」にあるしつかうの身・たけくらべの意味をより深く理解し、身につけることが出来ると思われる。

次いで十手術の模範演武、そして神道霞流剣術一本目相寸から八木目摺込までの実技研修が行われた。そして午後5時に研修を終え、一心流鎖鎌術発祥の地阿智村浪合に向かった。

その日は不動温泉「華菱」に投宿、夕餉はしし鍋、信州馬サシ、いろいろ端懐石料理などなど。

赤々と燃えさかる炭火に鮎の串刺し、信州牛の肉塊、地元でとれた野菜の品々、なかでも特別な味噌だれをつ



盛会だった研修会





けた万願寺トウガラシは、自慢の逸品のようにであった。おりしも屋外は嵐にちかき雷雨が吹き荒れているようにときに、電灯が点滅した。

9時30分をすぎたころ、温泉の湯船に身を沈めた。吹き抜けの窓ガラスを疾風とともに雨脚が激しく打っていた。意を決して露天風呂に。例年であれば、杉木立をとおしてみる夜空は、日本一といわれる星空が広がっている、いまは漆黒の闇であった。

大粒の雨脚が絶え間なく襲い思わず濡れたタオルを頭

上に、一瞬空があかるくなったと思うと絵に答いたような稲妻、間をおかずして雷鳴が全身に響いた。

近い。それは念流山に鎮座する麻利支天の怒りのようであった。そして温かい温泉の湯が柔らかにそのひらがりをもって受けとめた。何回か閃光とともに雷鳴に身をおくうちに、来し方いろいろな人との様々なかわりが脳裏をかすめ、やがて気がつけば安らかで穏やかな思いに包まれていた。阿智村浪合には人の心を癒す大自然があり、毎年4月24〜25日頃、吉野から取り寄せた桜が満開になるといふ。

8月1日

昨夜の天候は一転晴天となり、朝食の後一同道衣に着替え、かつて慈恵念和尚の尊崇した麻利支天が鎮座する念流山山頂に向かった。標高1100メートルの急な斜面の山道を登る。木々はまだ滴を蓄え落ち葉はしつとりと色鮮やかにみずみずしかった。

山頂にて麻利支天祠に礼拝の後、山をくだり直ちに浪合神社前にて剣術、杖道、鎖鎌、十手、居合、抜刀術など奉納演武を行った。

午後からは、浪合小学校体育館で各流の武道演武会を行い、おりしもキャンプに来ていた愛知県内の小学生ら約50人の子どもたちが、館内いっぱいには拡がり杖道の基本技を体験学習した。そのもようは南信州新聞8月10日(水)に写真入りで掲載されている。

8月2日

浪合神社西方のほど近い場所の鬱蒼とした茂みのなかに東京青山にゆかりの祖霊を祭る青山神社があり参詣した。青山氏のルーツまた東京青山由来の様々な歴史的事実について詳しくは「一心流鎖鎌術ゆかりの叢書」

に記述されている。

今回、飯田市武道館では一心流鎖鎌術の表術十二本についての研修が行われた。しかしこの一心流鎖鎌術には裏術があり、裏術居敷、添身、浮舟などの術にも優れた理合と魅力がある。

ことに忘れることができないのは平成22年9月に福岡市博多体育館で行われた、第54回全国杖道大会の開会にあたり、露払いとして主催者である神道夢想流杖道振興会神田会長と、大里師範の数本の鎖鎌術の演武があった。会場は肅として声なく深山をおもわせる静寂の中で行われた。ことに裏術振込(替技)には数十年余にわたる研鑽と気迫にみち、その光景は今も脳裏を離れない。



